

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 前田柊

私は、今回の留学を通じ、さまざまな変化があったと思います。台湾では、台湾の風習、文化、特有の社会問題など、語学以外にもさまざまなことを勉強しました。留学する前、台湾は親日の国、程度の認識しか持っていませんでしたが、台湾に対する解像度が上がったと思います。今回の派遣に参加し、留学する際には、その国のことをよく知ろうという姿勢が大切であることを痛感しました。

台湾では、勉強以外にも自由時間が多くとられ、友人と共にいろいろな場所に行きました。基本的に台北で活動していましたが、台南まで赴き建造物を見学したりもしました。至る所で日本統治時代の名残を見ることができ、自国と台湾の関係を何度も考えさせられました。台湾の人々は皆親切で、日本人だからと差別されることは全くありません。台湾のローカルのレストランは、価格が安く助かりました。日本のチェーン店もたくさんありましたので、食事に困ることはまずないでしょう。

平日は毎日国立台湾大学へ行き、所定の教室で授業を受けます。授業内容はクラスにより変わりますが、私のクラス(Cクラス)では、教員が学生に質問をして学生がそれに答える形で進行しました。教員は基本的に中国語で授業を進め、日本語はまず使われません。最初は聞き取りに難儀しましたが、すぐに慣れました。授業時間は3時間ですが、非常に濃度が濃く、授業後はかなり疲れました。最初は口から中国語が出てこず、単語でかろうじて答えていましたが、最後にはちゃんと文章を組み立てて応答できるようになりました。留学には単語帳を持参することをお勧めします。積極的に新しい単語を使うと、実力はかなり伸びると思います。語学教室の他に、Taiwan Exploring Course という授業があります。この授業では、台湾大学の講師が台湾の文化、地理、社会問題などの幅広い事柄を解説してくれます。この授業は英語で行われ、かなり込み入った話も聞くことができます。質疑応答の時間が設けられていますので、気になったことはなんでも聞きましょう。Cultural Visit では、みんなで色々な場所に行き歴史的な建造物などを見学します。ガイドがついて、歴史的な背景を説明してくれます。英語を話すガイドと中国語を話すガイドの二人がいて、好きな方について行くことができます。私は中国語のガイドについて行きましたが、時折日本語や英語を織り交ぜて説明してくれるため、話の理解には問題なかったです。

留学の一つの利点は、さまざまな人と出会えることです。今回のプログラムに参加しなかったら絶対に出会えなかったであろう人たちと友達になれたのは、大きな収穫でした。